

総括研究報告書

1. 研究開発課題名：ひきこもり状態を伴う広汎性発達障害者の家族に対する認知行動療法の効果：
CRAFT プログラムの適用

2. 研究開発代表者： 境 泉洋（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

3. 研究開発の成果

ひきこもり状態を伴う広汎性発達障害者の家族に対して、当事者の受療を促進するための効果的なプログラムを構築することは、自ら支援機関を利用することが少ないとされるひきこもり支援において重要な課題となっている。本研究では、研究Ⅰとしてひきこもりの家族支援のニーズ調査、研究ⅡとしてCRAFT プログラムの効果検証、研究Ⅲとして実施者養成システムの在り方について検討を行うことを目的とした。

研究Ⅰにおいては、各都道府県・各政令指定都市のひきこもり支援の関連施設、及び施策担当 368 箇所へ郵送し、206 箇所（回収率 55.98%）から回答を得られた。そのうちインフォームド・コンセントを得ることができ、回答に不備がなかった 186 箇所（有効回答率 90.29%）の回答を解析に用いた。その結果、家族相談の実施に関して、ひきこもり地域支援センターと精神保健福祉センターの多くは実施しているが、発達障がい者支援センターでは実施している割合が両極端になる傾向が示された。また、ひきこもり相談における家族支援の必要性については、すべての機関が必要性を感じているという結果が得られた。特にひきこもり地域支援センター、精神保健福祉センター、発達障がい者支援センター、及び精神保健施策担当は必要性を強く認識していることが示された。

研究Ⅱにおいては、CRAFT の効果検証方法を検討するため、CRAFT の治療プロトコルを作成し倫理委員会に申請し承認を得た。また、そのプロトコルに基づく介入について、CRAFT 群 20 例、統制群 11 例を対象に効果検証を行った。CRAFT 群は 20 名であり、親の平均年齢は 59.12 ± 7.02 歳、続き柄は母親が 15 名、父親が 5 名であった。ひきこもり当事者の平均年齢は 26.59 ± 7.17 歳、性別は男性 13 人、女性 7 人であった。平均ひきこもり期間は 4.05 ± 4.36 年であった。PARS のカットオフポイントを超えるものは、幼児期ピークで 0 名（0.00%）、現在で 2 名（10.00%）であった。また、比較対照群は 11 名であり、親の平均年齢は 60.38 ± 7.82 歳、続き柄は母親が 6 名、父親が 5 名であった。ひきこもり当事者の平均年齢は 39.86 ± 8.01 歳、性別は男性 10 人、女性 1 人であった。平均ひきこもり期間は 7.73 ± 6.39 年であった。PARS のカットオフポイントを超えるものは、幼児期ピークで 0 名（0.00%）、現在で 1 名（9.10%）であった。研究Ⅱの結果、CRAFT 群では、改善する事例が多く、効果指標においてもセルフ・エフィカシーが低下するのを防ぐ効果があることが示された。

研究Ⅲにおいては、CRAFT の実施者養成として、CRAFT の 3 つの研修方法を行った。1 つ目は、CRAFT マニュアルの訳本を用いた研修である。2 つ目は、CRAFT プログラムの開発者である Meyers 氏による 2 日半の集中型研修である。集中型研修のために Meyers 氏をアルコール依存領域の専門家と連携して招聘した。3 つ目は、日本語による 1 日の集中型研修である。これらの研修を通して、CRAFT を学ぶ際の質疑応答（Q&A）集を作成した。また、CRAFT 実施者から CRAFT 実施に関わる意見を収集した。

今回得られた知見をもとに、CRAFT プログラムの実施ガイドラインを作成した。ガイドラインにおいては、CRAFT の概要、CRAFT の基本、ひきこもり状態にある人が第一群に該当する場合、ひきこもり状態にある人が第二群に該当する場合、CRAFT の応用可能性、CRAFT を実施するうえでの課題、CRAFT を学ぶ方法について指針を示した。